

RNF43 as a predictor of malignant transformation of pancreatic mucinous cystic neoplasm

野間（崎濱），久紀子

<https://hdl.handle.net/2324/4784514>

出版情報 : Kyushu University, 2021, 博士（医学）, 課程博士
バージョン :

権利関係 : Public access to the fulltext file is restricted for unavoidable reason (2)



氏 名： 野間（崎濱） 久紀子

論文名： *RNF43* as a predictor of malignant transformation of pancreatic mucinous cystic neoplasm

(膵粘液性嚢胞腫瘍の悪性化の予測因子としての*RNF43*の可能性)

区 分： 甲

論 文 内 容 の 要 旨

膵粘液性嚢胞腫瘍(MCN)は膵癌の前駆病変とされているが浸潤癌へと進行する症例は少なく、その悪性化に関係する分子異常について解析した報告は少ない。MCNにおける*RNF43*変異と組織学的グレードやタンパク発現、Wntシグナルタンパクとの関係についてはまだ明らかになっていない。本研究ではMCN106症例を腺腫に相当するlow-grade(LG)89症例、上皮内癌に相当するHigh-grade(HG)9症例、浸潤癌(INV)8症例に分類した。HG9症例のHG領域とLG領域、LG9症例のLG領域に対してターゲットシーケンスを行い、タンパク発現の確認のため*RNF43*、 β カテニンの免疫染色を施行した。*RNF43*変異はLG症例に比べHG/INV症例で明らかに多く、HG/INV症例のLG領域では*RNF43*変異が認められたのに対し、LG症例では変異を認めなかった。*RNF43*のタンパク発現はHG/INV症例の71%で低下し、組織学的グレードや β カテニンの異常発現と有意な相関を認めた。*RNF43*変異のある5症例のうち3症例でタンパク発現が低下していたが、明らかな有意差は認めなかった。KRAS変異の頻度が最も高く、HG領域の全例、LG領域では50%に変異を認めた。LG領域においてHG/INV症例とLG症例の間で頻度の差は認めなかった。今回の研究において*RNF43*変異は早期からMCNの悪性化に関与しており、悪性化予測因子となる可能性があると考えられる。